

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|------------------------|
| 施設名 | 太陽の子つつじヶ丘保育園 |
| 施設所在地 | 東京都調布市 西つつじヶ丘4-29-1 |
| 法人名 | HITOWAキッズライフ株式会社 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

夢を叶えるお仕事紹介

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・夢を叶えるお仕事
- ・保育園のリーダーになる

5歳児は、就学に向けて社会性と知的好奇心が急速に発達する時期になる。保育園の外に関心を持ち、仕事に憧れ・興味生まれる。社会の仕組みを学び、働くイメージを持つ機会となることに期待が持てる。

2. 活動スケジュール

【子どもの興味からテーマの設定をする】

昨年の5歳児のお仕事紹介にあこがれて、お仕事紹介を今年もやりたいという声が子どもたちから上がり、おしごと紹介をテーマに設定する。

【おしごとについて考える】

5/26 つつじヶ丘駅を見学した際、自分たちが見たり聞いたりしたことを記録に残し、振り返ろうと話し合い、「おしごと図鑑」の作成を始める。

「世の中にはどんな仕事があるのか?」「お父さんお母さんは、どんな仕事をしているのか?」

「お仕事紹介」と題し、以後、話を聞く機会を設ける。

【園に来園してもらい仕事の内容について話を聴く】

7/9: キャビンアテンダント(保護者)を園に招き、話を聞く。

6/5: 近隣のUR神代団地での鷹匠の仕事散歩時に見学。その仕事に興味を持った子どもたちから、「話を聞いてみたい」という声が出る。

6/11: 司法書士(保護者)を園に招き、話を聞く。

7/14: 鷹匠にZOOMで話を聞く。

9/22: スーパーマーケット精肉部門チーフ(保護者)を園に招き、話を聞く。

9/24: 京王電鉄車掌(保護者)を園に招き、話を聞く。

9/30: ネイリスト(保護者)を園に招き、話を聞く。

【職場を訪問して話を聴く】

12/10: 図書館司書 調布市立図書館調和分館を訪れ、話を聞く。

12/17: プロジェクターを使用し、警察と消防の仕事を紹介する動画を視聴。見学を前に予備知識を付け、子どもたちの期待を高める。

12/18: 警察署、消防署/2グループに分かれ、調布警察署、調布消防署つつじヶ丘出張所を訪ね、施設を見学、仕事について話を聞く。

【おしごと図鑑の制作、園の財産にする】

おしごと図鑑を作成し、4歳児に披露する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・子どもに馴染みがある仕事をしている保護者・地域に紹介依頼をする。
- ・決定した職業について、スクリーンを購入して予習をする。
- ・紹介をしてくださる方から、資料を預かり印刷をかける。
- ・実際に来園ができない仕事について、zoomで繋げて紹介をしてもらった。(鷹匠)
- ・おしごと図鑑作成のための用紙など

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 子どもたちがこども会議の中で、「将来の夢」や「ゆり組（5歳児）としてやりたいこと・できること」について話し合う。
2. 保育園の中で自分たちができるお仕事（手伝い）はなんだろう？を考える。
3. 保育園の外で、私たちが支えてくれる人たちは、どんな職業なんだろう？を考える。
4. 実際に仕事をしている人から、直接話を聞いてみる。
5. 話を聞く前に、その仕事について調べてみる。
6. 「お仕事紹介」に参加する。
7. 振り返ってこどもお仕事図鑑を作成する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

私たちの生活を支えてくれる身近なお仕事を知る機会を持つことで、子どもたちの夢がどんどん広がっていった。電車の運転士さん・車掌さんになりたい子、看護師さんになりたい子、ケーキ屋さんになりたい子、アイドルになりたい子。その中で、実際に働く人から話を聞くことで、子どもたちはイメージを強く持つことができていた。それが身近な保護者だとより一層親近感を持つことができる様子が、当日飛び交った沢山の質問からうかがえた。保育士になりたい子どもは、小学生になるとできる保育士体験を楽しみにしている。子ども同士でもごっこ遊びの中で保育士役の姿が見られる。

消防署の見学では、「出動する時に身につける装備は、全部で20Kgあるよ」という話を聞き、実際に消防服を着させてもらった。すると「わぁ、重たい。こんなに重たい服を着てよく動けるね」と驚いていた。京王電鉄の車掌のお仕事紹介では、制服を着用して話をしてくれた。「帽子の紐は、風で飛ばされないようにするために付いているんだよ」と使い方を実演してくれた。子どもたちは「面白い」と笑いながら、「そのために付いているんだね」と感想をもらっていた。

園内でも、廊下や階段・下駄箱・絵本だな・乳児クラスのおもちゃや椅子拭き等、率先して保育士の手伝いをしている。保育士から「ありがとう。助かるよ」という言葉をかけられ、楽しんで手伝うことが、社会参加へ繋がっていることを無意識に体感しているようだ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

5歳になったらお仕事紹介をやりたい、という意欲があった。

自分たちに一番身近な保護者の仕事って何だろう、という疑問から出発。

活動の中で、近隣の人の仕事の風景や、仕事場での保護者の姿を間近に見ることで、働くことへのイメージなどを理解することができた。もっと知りたいという意欲が高まり、外の施設へ訪問し、実際に話を聴く機会は子どもたちにとって新鮮な気持ちだった。

普段は園内で子どもたちはこども事業部の活動として、掃除や片付けなどで、ありがとうと感謝の言葉をもらうことがあるが、実際に働いている人たちの話を聴くことで、より働くことへの興味を広げることができた。

消防署の人に話を聞いた際、「何が一番楽しいですか?」と尋ねると「何もないことです」という答えが返ってきたことに、子どもたちは驚き、感心していた。働くことの大変さや楽しさ、社会への理解を深めることができていった。

自分たちが発見したこと、調べたことや知ったことをもとにおしごと図鑑を作った。

おしごと図鑑を作ることで、文字や数字など抽象的な概念への興味も広げることが出来、効果的な手立てであった。また、友だちと一つの物を作り上げることで達成感や自己肯定感を感じることも出来た。また、他クラスへの情報共有と言う意味でも、有効であった。地域資源を活用することで、より幅広く深い活動となった。また、地域の大人とつながるきっかけにもなった。

お仕事図鑑の活動を通じて、子どもたちが成長したなと思うところは?

➡人の話を聴く力、対話、楽しさ、みんなで協力して図鑑を作ることで協同性、達成感。役割分担。園の中での憧れの存在としての活動ができた。